



2024年12月期 第3四半期決算説明資料

株式会社 イメージ・マジック

2024年11月14日

証券コード:7793

目次

- 1 会社概要
- 2 業績
- 3 株主還元
- 4 今後の成長戦略
- 5 Appendix

1

会社概要

事業概要図

オンデマンドプリント
サービス 当社領域

ソリューション
サービス 当社領域

他社領域



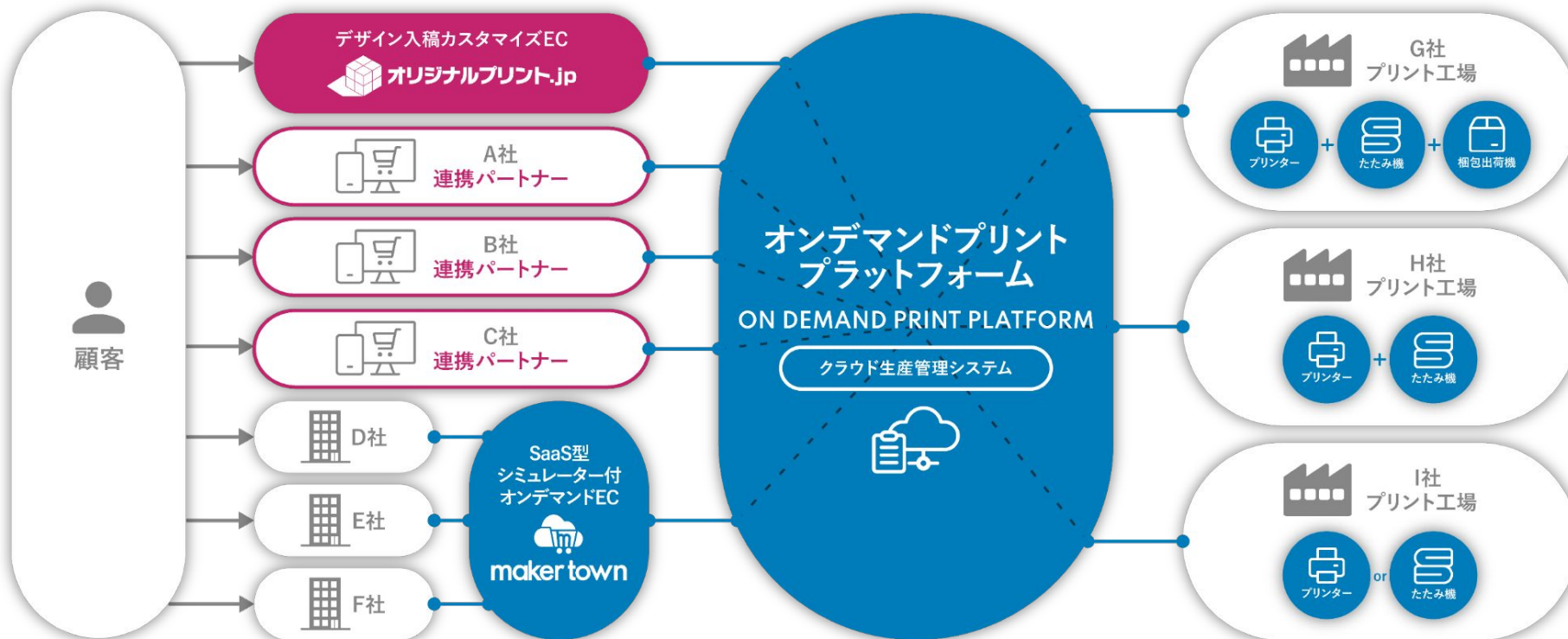
受注システム



クラウド生産管理
システム



ハードウェア



イメージ・マジックの目指す世界

個性と創造性溢れる 豊かな社会づくりに貢献します。

“プリント×IT”で起こす、イノベーション



**簡単・便利な
モノづくりを実現**

お客様が簡単/便利にモノづくりができ、お手頃価格で欲しいタイミングでお手元に届くことを実現する。



**オンデマンド
生産市場拡大に貢献**

工場のモノづくりのDX化をサポートし、オンデマンド生産市場拡大に貢献する。



**在庫を減らし
つくる責任を果たす**

オンデマンド生産できるアイテムを拡げ、世の中の無駄な在庫を減らし『つくる責任』を果たす。



**ソリューションを
グローバルに提供**

世界中から最適なソリューションをマッシュアップし、信頼されるサービスをグローバルに提供していく。

サステナビリティ(ESG/SDGs)

サステナビリティにおける重要課題(マテリアリティ)を設定 事業活動を通して、社会課題の解決と企業価値向上を実現

イメージ・マジックは、創業時より「必要なものを必要な分だけ作る」というポリシーを掲げ、環境負荷の低減に取り組んできました。
これからもテクノロジーを活用した事業活動を通じて、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



環境



社会



ガバナンス



- ・オンデマンドアパレルで持続可能なモノづくりを推進
- ・在庫廃棄を抑制するオンデマンド生産の業界インフラ改善
- ・環境に配慮したESG経営とモノづくりの仕組み作り
- ・環境負荷の低減に貢献する顔料インクと昇華染色の採用
- ・協働ロボットアームによる省人化と生産性向上
- ・AI活用による業務改善と省エネルギー化



- ・働きがいある仕事と技能支援によるDX推進
- ・ジェンダー平等の継続的な取り組み
- ・パートナー工場との連携によるサステナビリティの推進



- ・透明性と健全性を備えた企業経営の強化

サービスにおけるサステナビリティ活動



オンデマンド生産の仕組みをクラウド化したサービス

ODPS On demand print solutions



シミュレーター付カスタマイズECをクラウド化したサービス

maker town

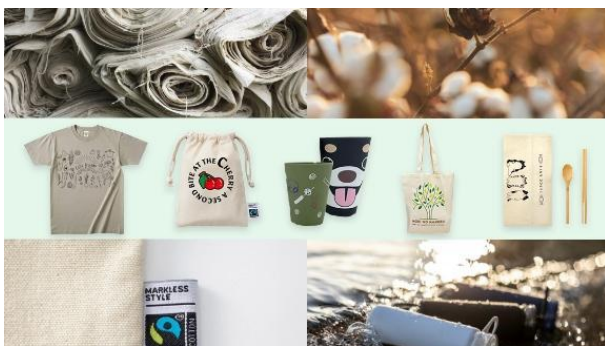


オンデマンド生産の仕組みをクラウド化したサービスの提供

従来の大量生産システムとは異なり、お客様のニーズに合わせたオンデマンド生産を実現するクラウドサービスを提供しています。これにより、無駄な在庫を抑え、資源の有効活用と環境負荷の低減に貢献しています。

資源の有効活用

環境負荷の低減



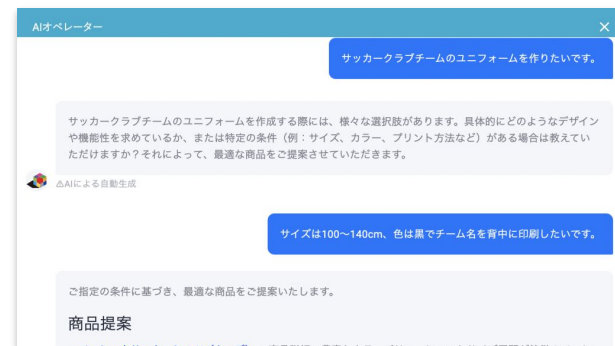
サステナブル製品の提供

環境に配慮した素材や製法を採用したサステナブル製品を積極的に使用し、環境負荷の低減に努めています。

また長く愛用できる高品質な製品を提供することで、廃棄物の削減にも貢献しています。

環境負荷の低減

廃棄物の削減



AIを用いたお問い合わせ対応

適切なAIツールを選定し、回答精度を高めるためのプロンプトのチューニング、商品データの学習を強化。さらにCRMと連携することで、AIが質問の意図を汲み取った適切な回答から商品のおすすめまで、信用度の高い回答を実現。

顧客対応の効率化・回答精度の向上

AIによる最適な提案

工場におけるサステナビリティ活動



「オンデマンドアパレル」で 持続可能なモノづくりを推進

オンデマンドアパレルシステムを開発し、必要なものを必要な量だけ生産することで、過剰生産や在庫ロスを防ぎ、資源の有効活用に貢献。生産計画の高度化や無駄な工程の削減など、生産効率の向上に向けた取り組みも積極的に推進。

過剰生産や在庫ロスの削減

生産計画の高度化・無駄な工程の削減



印刷工程における 水の使用量の比較

顔料印刷

限りなくゼロに近い

染料印刷



環境負荷の低減に貢献する 顔料インクと昇華染色の採用

環境負荷の低い顔料インクと昇華染色の技術を採用し、水の使用量や廃棄物の削減を実現しています。インクの独自開発など、安全性の高い製品の提供に向けた取り組みも積極的に推進。

水の使用量や廃棄物の削減

環境負荷の低減



工場から出る廃棄物の 再資源化(固形燃料化)

工場から出る産業廃棄物を燃料に変換するRPF(リサイクル燃料)を製造し、廃棄物の削減とエネルギーの有効活用に貢献しています。RPFの普及促進にも取り組んでいます。

再資源化・CO2排出量の削減

RPFの普及促進

事業内容

当社ビジネス オンデマンドプリントサービス・ソリューションサービス

オンデマンドプリント サービス

1 自社受注サイト

当社インターネットサイトを經由で受注しプリント加工を行い出荷するサービス



2 連携パートナー

連携パートナー企業と呼んでいる当社のシステムと接続した会社經由で受注データを取り込みプリント加工を行い出荷するサービス



主なグッズ一例 |

オリジナルグッズ/カジュアルギフト/クリエイターグッズ/エンターテイメントグッズ/ノベルティ/ユニフォーム



ソリューションサービス (ODPS)※

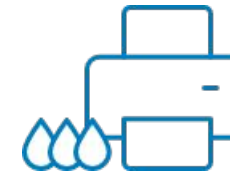
3 ソフトウェアの提供

オンデマンドプリントの各ワークフローをOEM及びSaaS型モデルとして提供



ハードウェアの提供

プリンター/たたみ機/梱包機等生産・出荷プロセスで関わるハードウェアを提供



※ODPS: 当社サービス名「On Demand Print Solutions オンデマンドプリントソリューションズ」の略

2

業績

2024年12月期 第3四半期 業績ハイライト（前年同期は2023年1月～9月試算表数値）

オンデマンドプリントサービス売上高が堅調に推移 増収増益を達成

売上高

5,584百万円

前年同期比 +27.9%

営業利益

364百万円

前年同期比 +81.8%

経常利益

374百万円

前年同期比 +86.0%

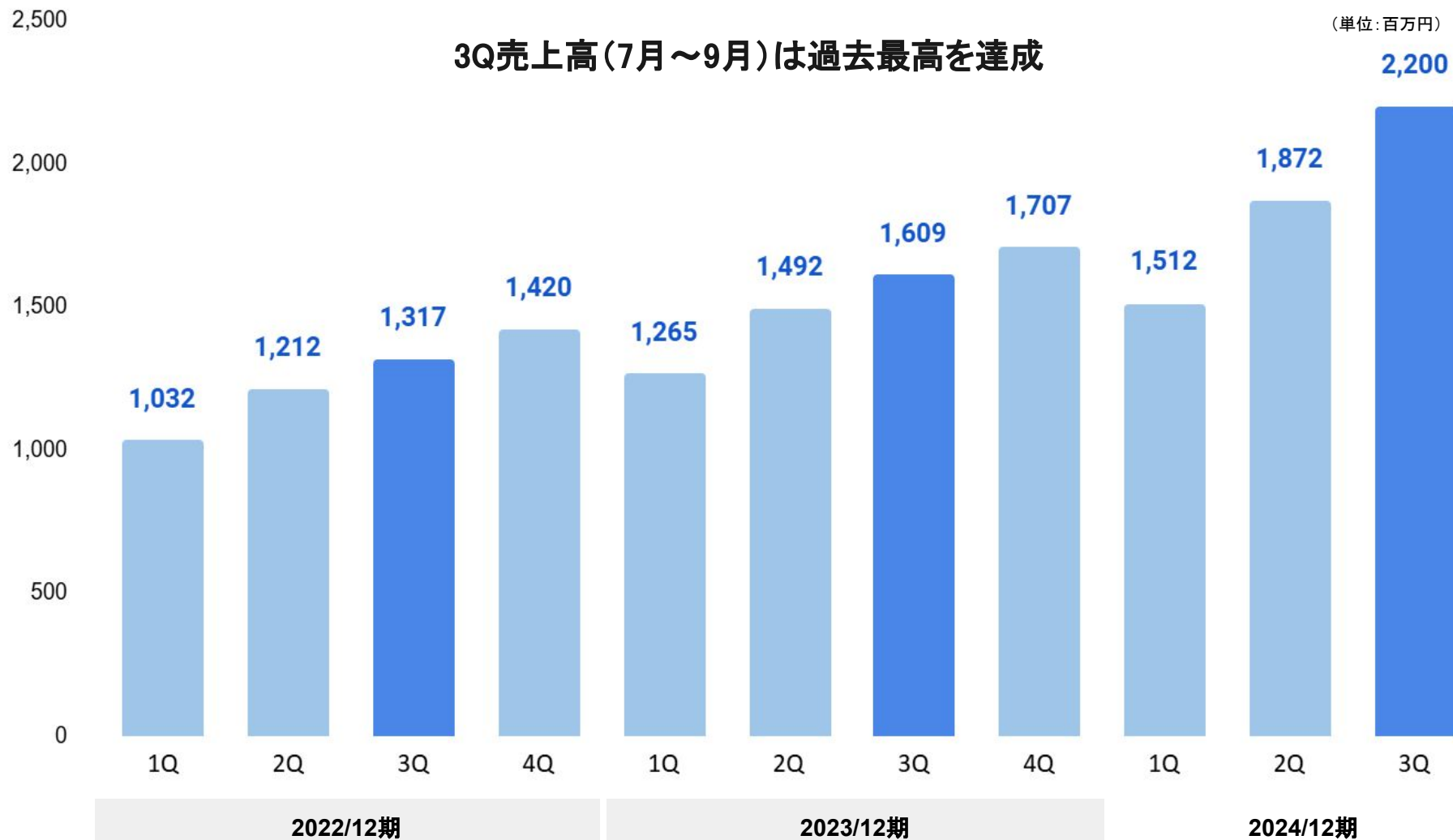
当期純利益

250百万円

前年同期比 +86.9%

四半期売上高推移

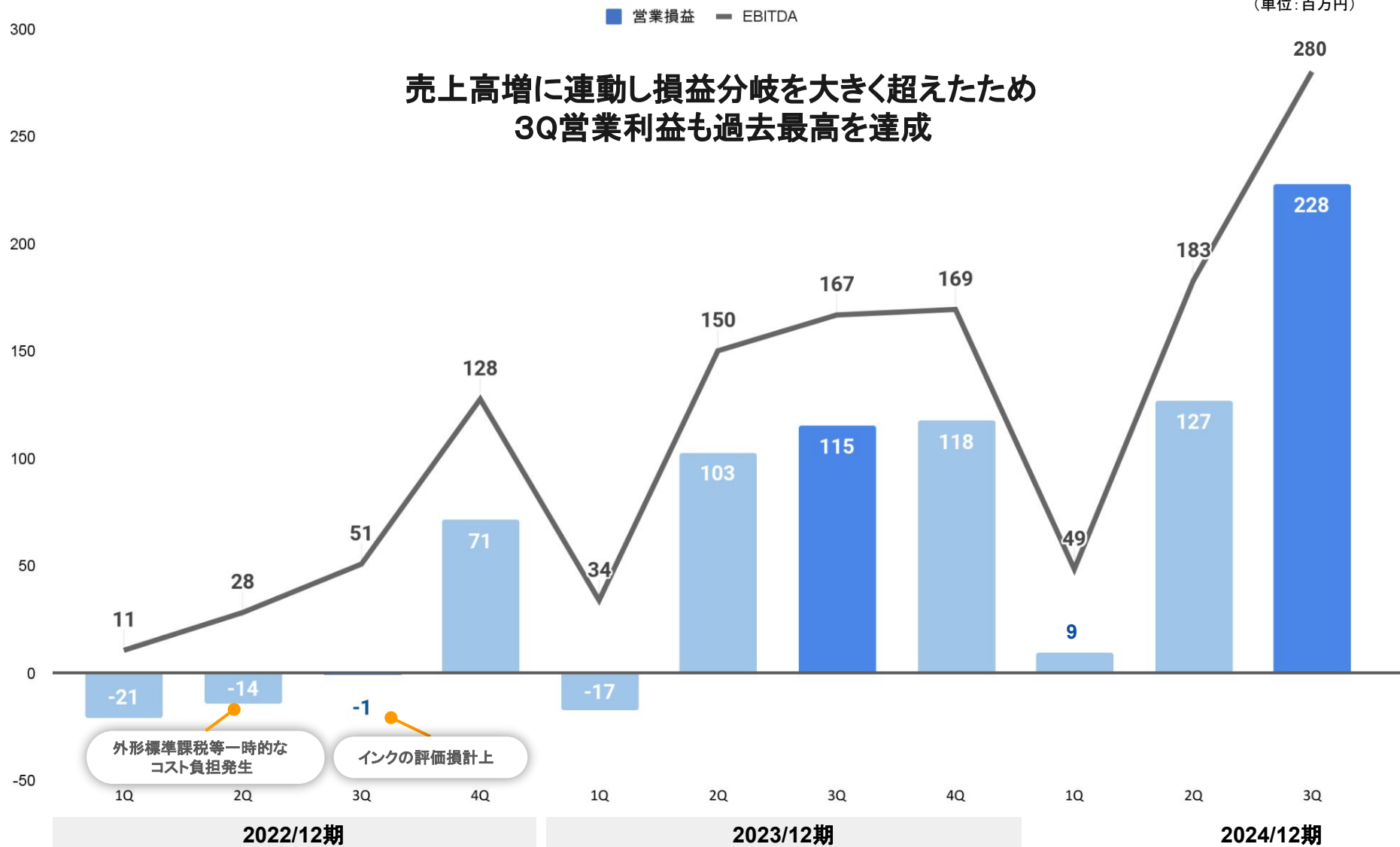
各期の実績は2024/12期と同一期間になるように組み替えております。



四半期営業損益推移

各期の実績は2024/12期と同一期間になるように組み替えております。

(単位:百万円)



2024年12月期 第3四半期 業績

(単位：百万円)	2023年	2024年12月期	前年同期比		2024年12月期通期	
	2023年1月 ～2023年9月	2024年1月 ～2024年9月	増減額	増減率	2024年1月 ～2024年12月	
	前年同期実績	当期3Q実績			通期予想	通期予想進捗率
売上高	4,365	5,584	1,219	27.9%	7,640	73.1%
営業利益	200	364	164	81.8%	370	98.4%
対売上比 (%)	4.6%	6.5%	+1.9pt	–	4.8%	–
経常利益	201	374	173	86.0%	377	99.2%
対売上比 (%)	4.6%	6.7%	+2.1pt	–	4.9%	–
当期利益	134	250	116	86.9%	243	102.9%
対売上比 (%)	3.1%	4.5%	+1.4pt	–	3.2%	–
EBITDA※	351	512	161	46.0%		
対売上比 (%)	8.0%	9.2%	+1.1pt	–		

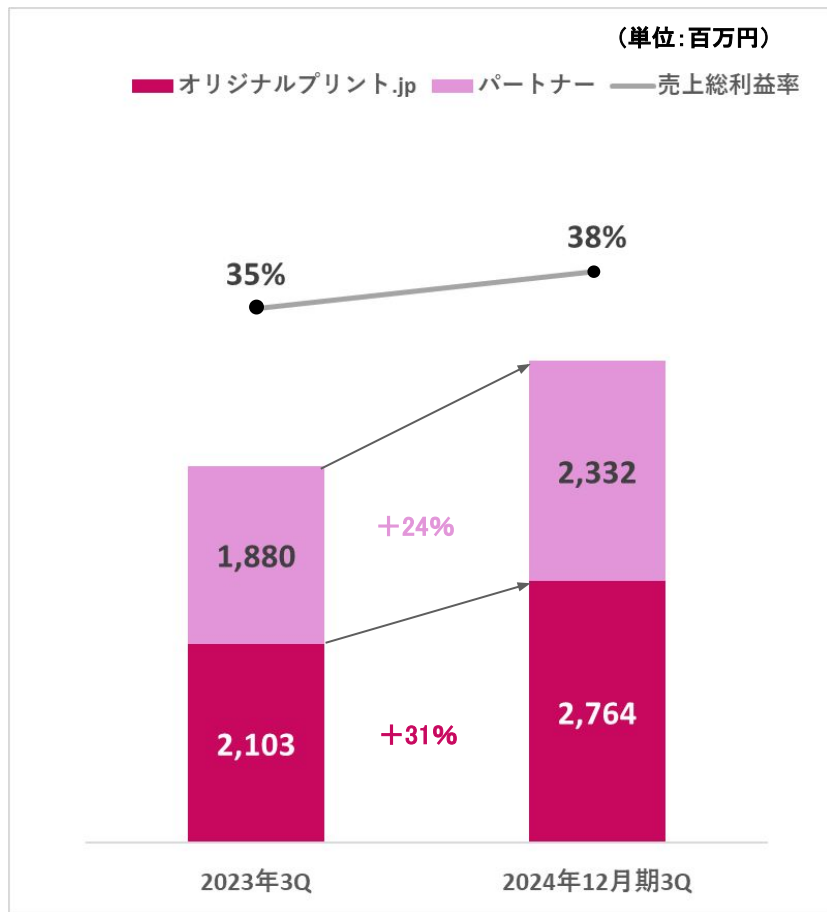
※：EBITDA = 経常利益 + 支払利息 + 減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）

前年同期は2023年1月～9月試算表数値になります。

通期予想は修正後の数値になります(P18参照)。

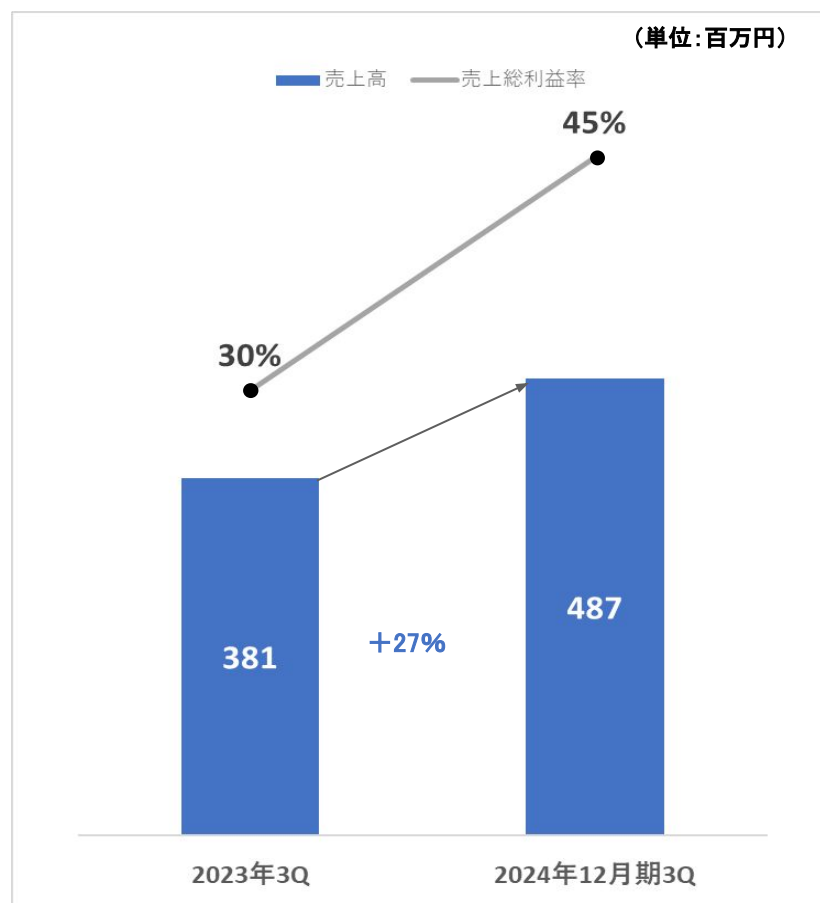
2024年12月期 第3四半期 業績 サービス別 前年同期比較 (前年同期は2023年1月～9月試算表数値)

オンデマンドプリントサービス



オリジナルプリント.jpのシェアアップに伴い売上総利益率も上昇

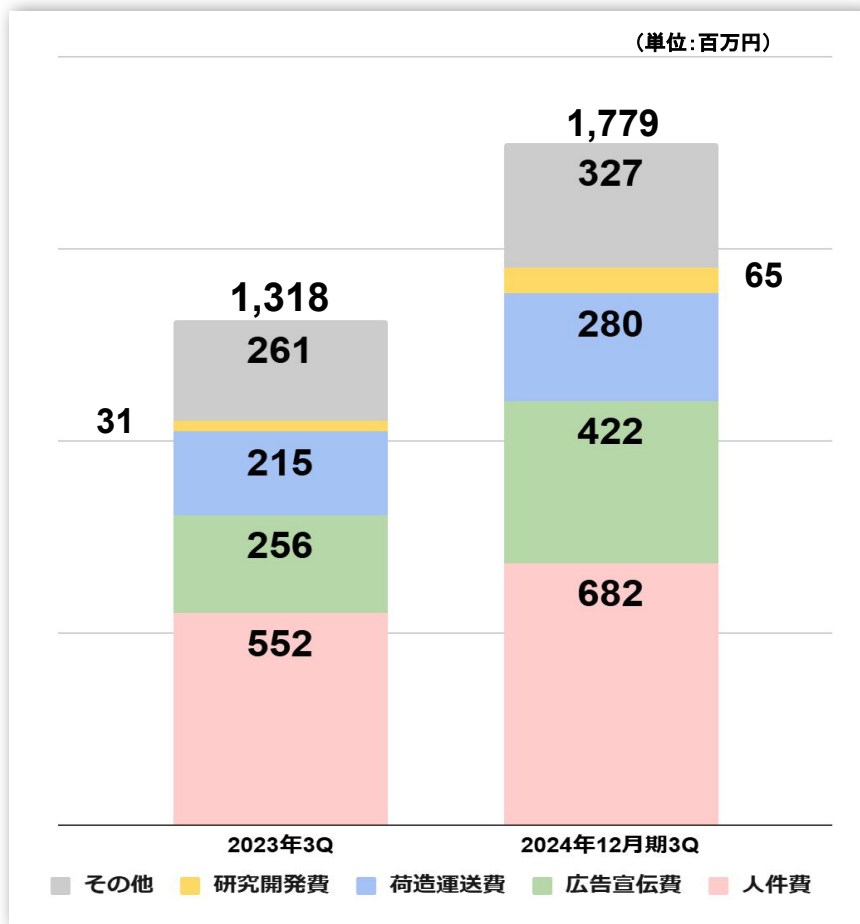
ソリューションサービス



DTFを中心とした消耗品の販売が大きく伸長

2024年12月期 第3四半期 業績 販管費の前年同期比較 (前年同期は2023年1月～9月試算表数値)

販売費及び一般管理費の主な内訳



当期販売費及び一般管理費

1,779 百万円

前年同期比: 461百万円増(+35.0%)

人件費

システム開発、機械開発部門の人員増による増加

682百万円 前年同期比: 129百万円増(+23.4%)

広告宣伝費

売上に連動させた広告出稿積極化により増加

422百万円 前年同期比: 166百万円増(+64.9%)

荷造運送費

オンデマンドプリント売上増に伴う増加

280百万円 前年同期比: 65百万円増(+30.3%)

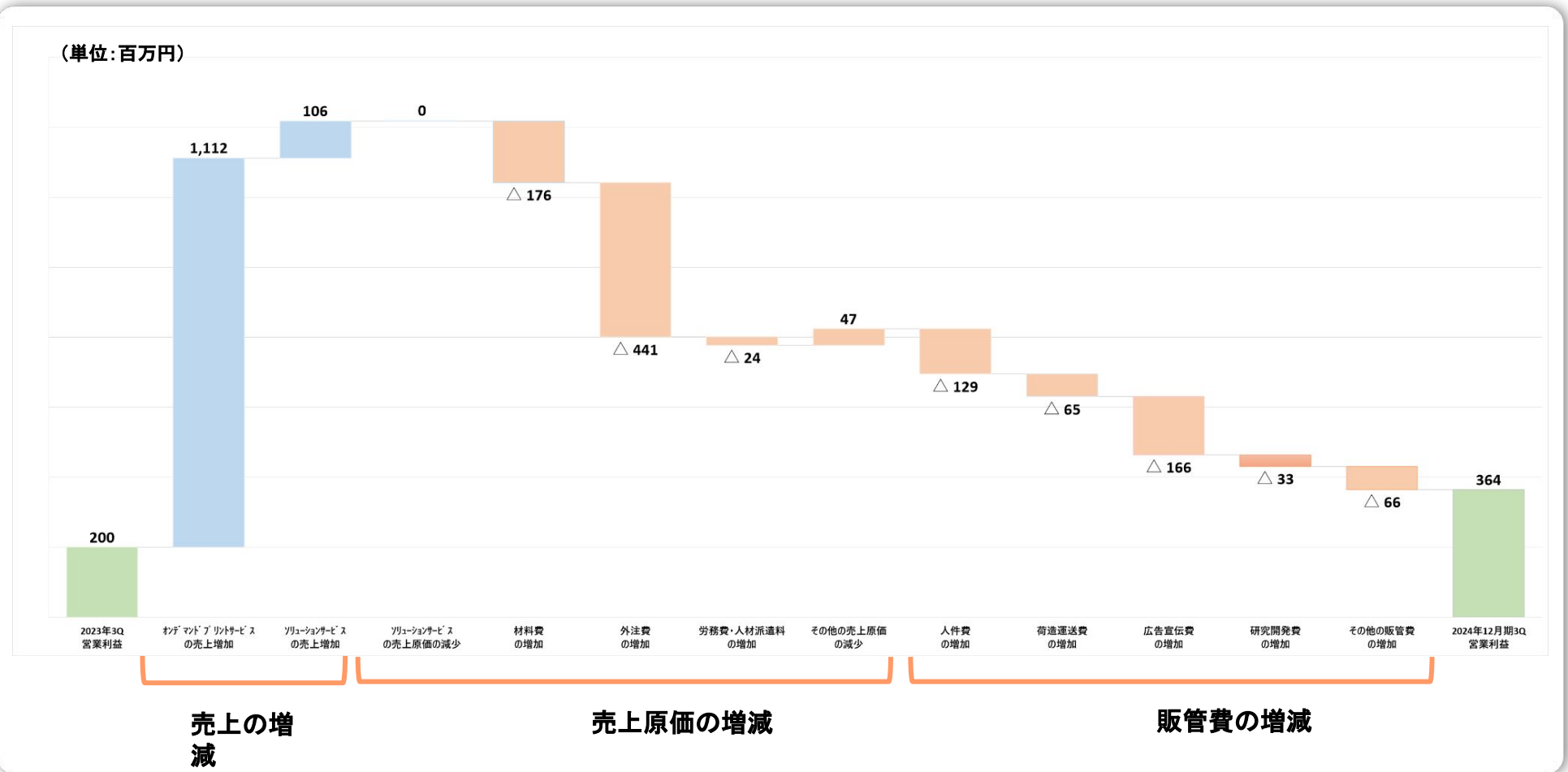
研究開発費

機械開発部門の人員増による増加

65百万円 前年同期比: 33百万円増(+107.3%)

2024年12月期 第3四半期 業績 営業利益の増減分析 (前年同期は2023年1月～9月試算表数値)

営業利益 前年同期比 164百万円増の主な要因



2024年12月期 第3四半期 業績 B/Sサマリ

(単位：百万円)	2023年12月末	2024年9月末	前期末比
	前期末	当3Q	増減額
資産合計	2,685	2,920	234
流動資産	1,762	1,743	△ 18
固定資産	923	1,176	253
負債合計	1,150	1,121	△ 29
流動負債	819	861	41
固定負債	331	260	△ 70
純資産	1,534	1,798	263
総資産	2,685	2,920	234
有利子負債	408	319	△ 89
現預金残高	862	690	△ 171
ネットキャッシュ	453	371	△ 82
自己資本比率 (%)	57.1%	61.6%	+4.4pt

2024年12月期 業績予想の修正

最近の業績動向を踏まえ、下記のとおり通期業績の予想を修正します。

(単位：百万円)	2023年12月	2024年12月期	2024年12月期	期初予想比	
	前年同期実績	期初予想	修正予想	増減額	増減率
売上高	6,072	6,540	7,640	1,100	16.8%
営業利益	318	150	370	220	146.7%
対売上比 (%)	5.2%	2.3%	4.8%	+2.5pt	—
経常利益	317	148	377	229	154.7%
対売上比 (%)	5.2%	2.3%	4.9%	+2.7pt	—
当期利益	203	92	243	151	164.1%
対売上比 (%)	3.4%	1.4%	3.2%	+1.8pt	—

(注)参考情報として掲載している前年同期実績は2023年1月～12月の試算表数値を単純合算した数値になります。

2024年12月期第3四半期 研究開発費/研究開発型設備投資

研究開発関連費用：226百万円

(研究開発費：65百万円 + 設備投資額：55百万円 + 関連経費：105百万円)

開示可能主要研究カテゴリー

TransJet

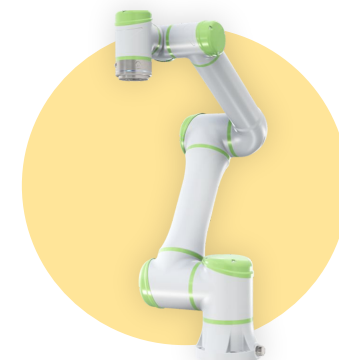


次世代DTFプリント
システムの開発



DTFプリント
効率化ソリューションの開発

CGXi × IMAGEMAGIC



印刷材料の
配置・搬送を
自動化



Tシャツを脱がす
工程などを
自動化



カメラ搭載で
識別しながら
次工程連携



プリンターとの
連携により
人の工程削減

CGXi社の協働ロボットを活用した
ソリューションを加速

3

株主還元について

株主還元について

当社は持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を重視しており、成長投資とバランスをとりながら、株主様に対する継続的な利益還元を実施することが可能と判断し、配当(初配)を実施することにいたしました。

基準日	2024年12月31日
当期純利益(予想)	243百万円
一株当たり当期純利益(予想)	103.7円
一株当たりの配当金	30円
配当金総額	71百万円

※1 当期純利益は現時点における業績予想の金額を記載しております。

※2 一株当たり指標および配当総額は現時点における発行済株式総数に基づいて試算しております。

※3 当社は成長フェーズにあり、中長期的な成長投資を優先しながら、内部留保・安定的継続的な株主還元を総合的に判断して配当水準を判断していきます。

株主還元について

株主優待

オリジナルプリント.jpで ご利用可能なクーポン贈呈

当社商品やサービスに触れていただくことでより多くの株主様に当社のオンデマンドプリントサービス事業のご理解を一層深めていただくことを目的といたしまして、株主優待制度を導入しております。

優待制度の拡充

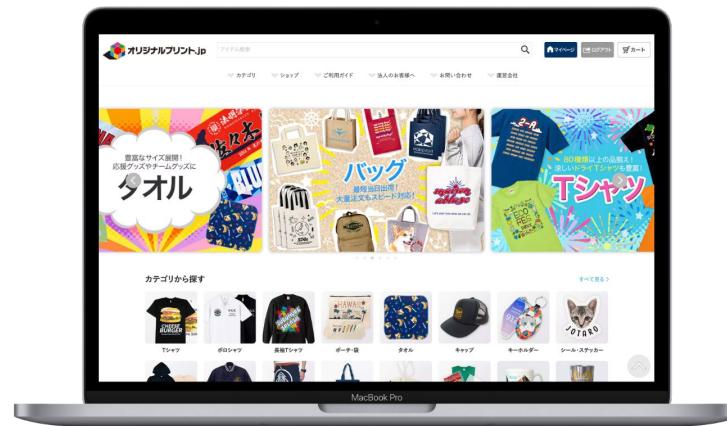
1年以上の保有、1,000株以上保有の株主向け優待の拡充

株主優待制度の拡充目的

長きに渡り当社株式を保有していただく株主様への感謝の意を表すとともに、より多くの株主様に中長期的に当社株式を保有していただくことを目的として、株主優待制度を拡充いたします。

(変更前)

保有株式数	内容
100株以上	3,000円分相当クーポン



(変更後)


保有株式数	保有期間	内容
100株以上 1,000株未満	1年未満	3,000円分相当クーポン
	1年以上(注)	6,000円分相当クーポン
1,000株以上	1年未満	6,000円分相当クーポン
	1年以上(注)	12,000円分相当クーポン

(注)保有期間1年以上とは、12月末日及び6月末日の株主名簿に同一株主番号で連続3回以上記載された場合といたします。

4

今後の成長戦略

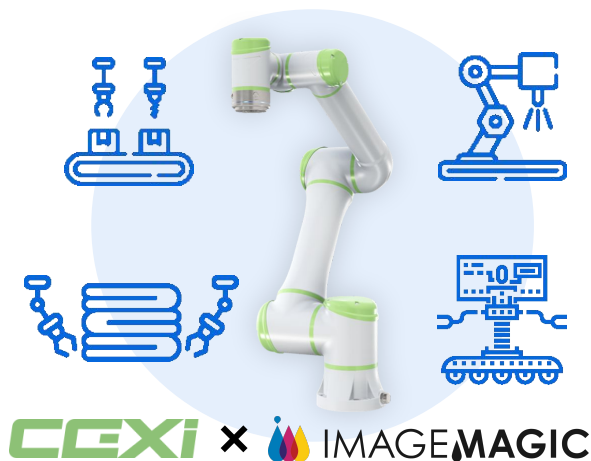
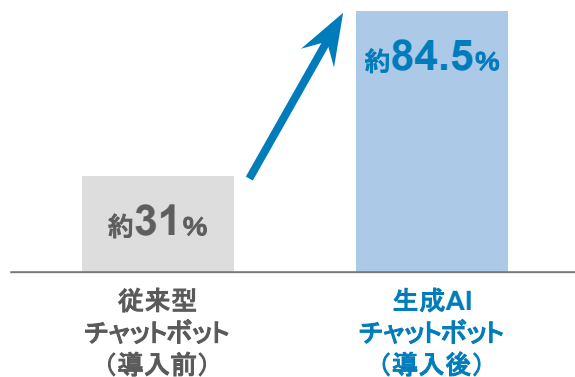
次世代DX化装置開発メンバーを増強 研究開発を加速

カテゴリ	印刷・加工方法			
 アパレル	製品	シルクスクリーン印刷	量産の印刷方法では主流で装置が完成され進化していない まだ周辺装置で進化の余地あり	関連装置研究開発
		DTG	プリンターメーカー主導で進化	—
		DTF	世界で市場拡大	次世代プリンター 自動化装置開発
		刺繍	—	研究開発
	生地	デジタル捺染 染料	市場の90%染料と圧倒的だが 環境負荷が高いため徐々に減少傾向	—
		デジタル捺染 顔料	今後拡大する市場	事業投資
 雑貨	UV印刷		現状の装置では 自動化が困難で生産性も低い装置が主流	自動化に適した 装置研究開発

省力化・自動化の取り組み

AI、協働ロボット、自動化装置開発の3つの柱で 生産革新を推進

生成AI導入の効果
問い合わせに対する解決率が
飛躍的に向上



営業における全プロセスへのAI導入を推進中

- 蓄積された全ナレッジをAIに学習させ、FAQ、問い合わせ対応、サービス対応、工場内のナレッジなどを自動化
- これにより、担当者の負担軽減、迅速な対応、精度の高い情報提供を実現し、顧客満足度向上と業務効率化を目指す

協働ロボットによる生産性向上と人材活用

- 協働ロボットメーカーCGXi社と協業し、ロボットアームの販売権を取得
- 人とロボットが協働で単純作業を自動化し、作業のスピードと精度を向上
- 生産性を飛躍的に高め、人材をより付加価値の高い業務へシフトを目指す

省力化・自動化装置による徹底的なムダの排除

- UV印刷やシルク印刷などのDX化装置を自社開発
- 独自のノウハウで自社に最適な装置を開発し、生産性向上とコスト削減の達成を目指す

印刷手法について



DTF転写 (Direct to Film)

貼る

- ・旧来の方法から進化
- ・DTFはフィルム出力したものを熱で貼る方法

綿・ポリエステル・ナイロンをはじめ、様々な素材に対応

耐久性も強くユニフォームなど様々な分野で拡大

旧来の転写は不向きだがDTFはオンデマンドに向く

2020年頃から
急拡大中



DTG (Direct to Garment) インクジェットプリント

吹く(塗布)

- ・1点からフルカラーで印刷できる
- ・大量生産してもコストはあまり変わらない

綿・ポリエステルのみに対応

アパレル企業を中心に拡大

オンデマンドに最適

オンデマンドに最適のため
高速化や省力化が加速



シルクスクリーン印刷

刷る

- ・古くからある印刷方法
- ・1色ごとに版が必要
- ・小ロットには向いていないが、数が増えれば最も安価で作ることが可能

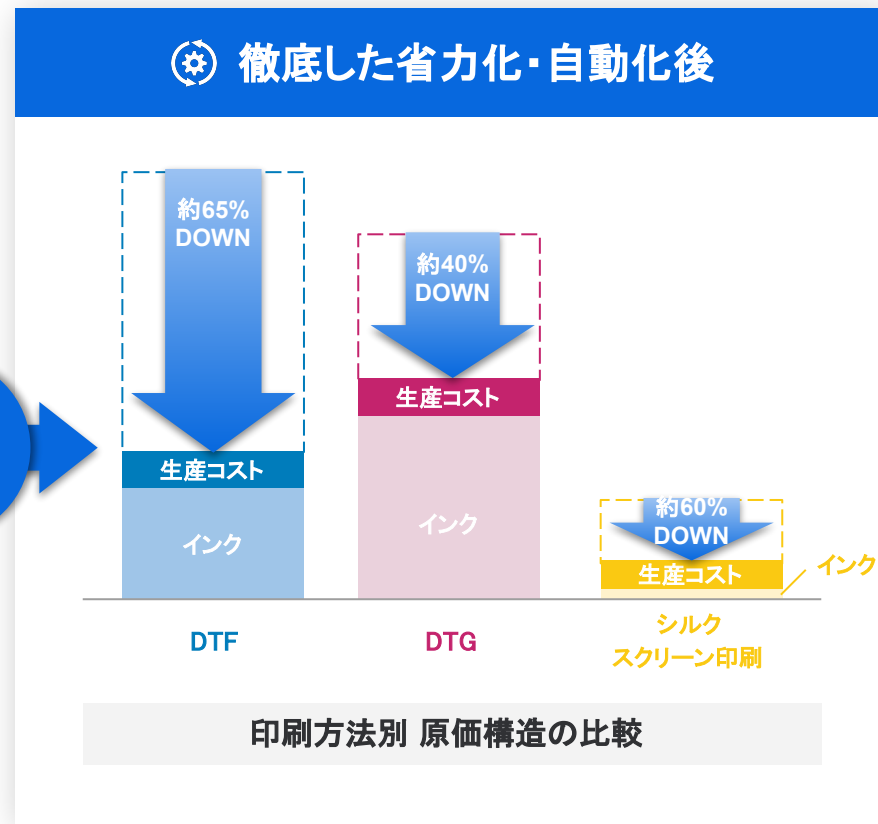
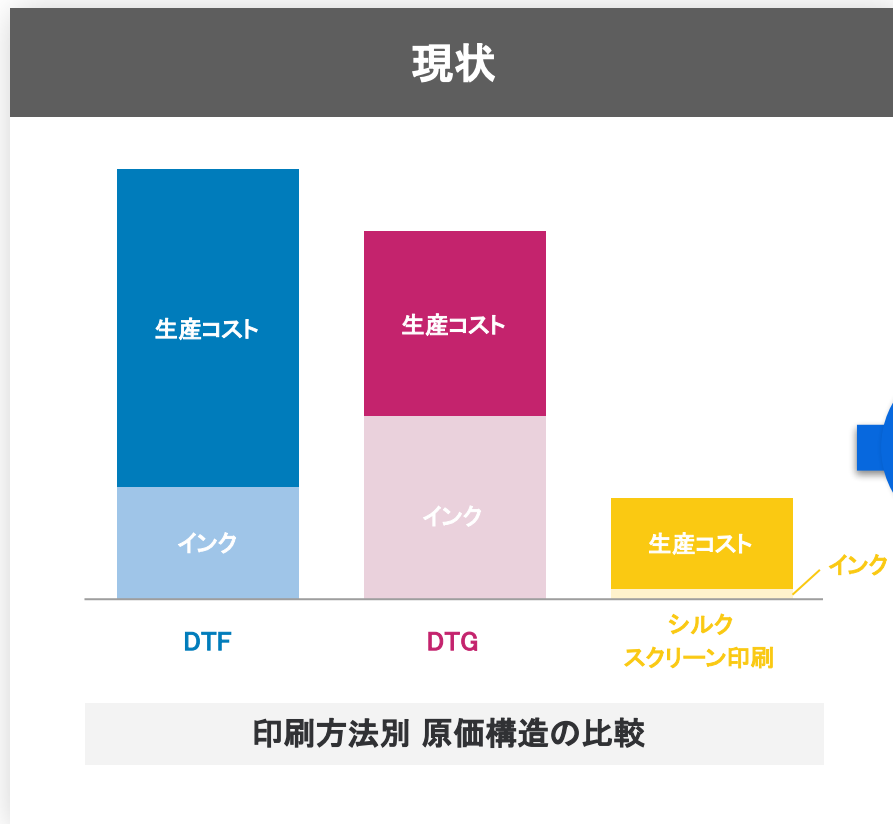
様々な素材に対応

量産はほぼこの方法

オンデマンドに不向き

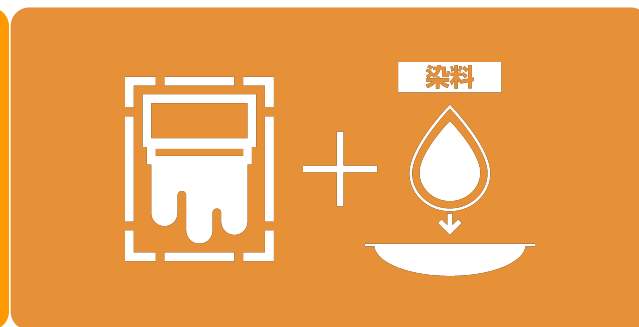
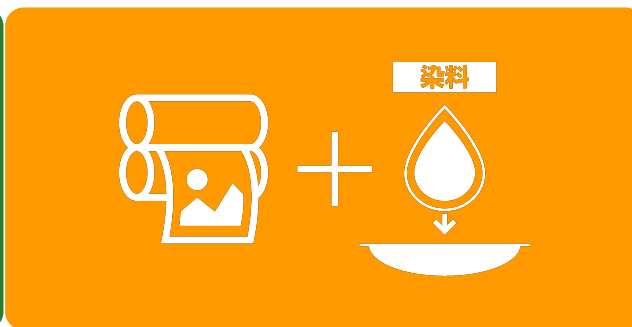
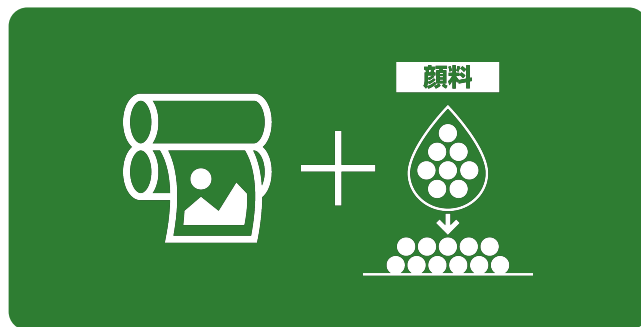
低コストのため
なくなることはない

印刷方法別のコストイメージ



自社開発装置やロボット化による省力化 コスト削減を目指す

テキスタイル生地への印刷手法について



デジタル捺染 顔料	デジタル捺染 染料	アナログ捺染 染料
インクジェット印刷	インクジェット印刷	スクリーン印刷
<ul style="list-style-type: none"> ・風合いが硬い ・堅牢度が低い ・黒の発色が弱い が、技術進歩で解決段階	<ul style="list-style-type: none"> ・風合いも柔らかい ・耐久性も高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・風合いも柔らかい ・耐久性も高い
前処理・印刷・乾燥 1工程	前処理・印刷・蒸し・洗浄・乾燥 それぞれ別工程	前処理・印刷・蒸し・洗浄・乾燥 それぞれ別工程
超短納期が実現	工程が多く納期も長い	工程が多く納期も長い

環境負荷が少なく
今後急速にシフト

生地の95%近くは染料で印刷

雑貨製品の印刷手法について



UV印刷	ホットスタンプ	パッド印刷	シルクスクリーン印刷
・インクジェットプリンターで 1点から可能	・金属箔を熱と圧力で転写し、 高級感 を演出する印刷技術	・シリコンパッドでインクを拾い、転写印刷	・絹目状の版でインクを押し出し、 鮮明な印刷 を実現する技術
デジタル印刷	型が必要 アナログ印刷	1色ごとに製版が必要 アナログ印刷	1色ごとに製版が必要 アナログ印刷
	耐久性も強い	プラスチック系素材の ノベルティ用途に最適	素材を選ばない ノベルティ用途に最適
オンデマンドに 最適	オンデマンドには 不向き	オンデマンドには 不向き	オンデマンドには 不向き

フルカラーで少量でも大量にも対応

少数には不向きで、多色も不向き
ロットが増えると非常に安価

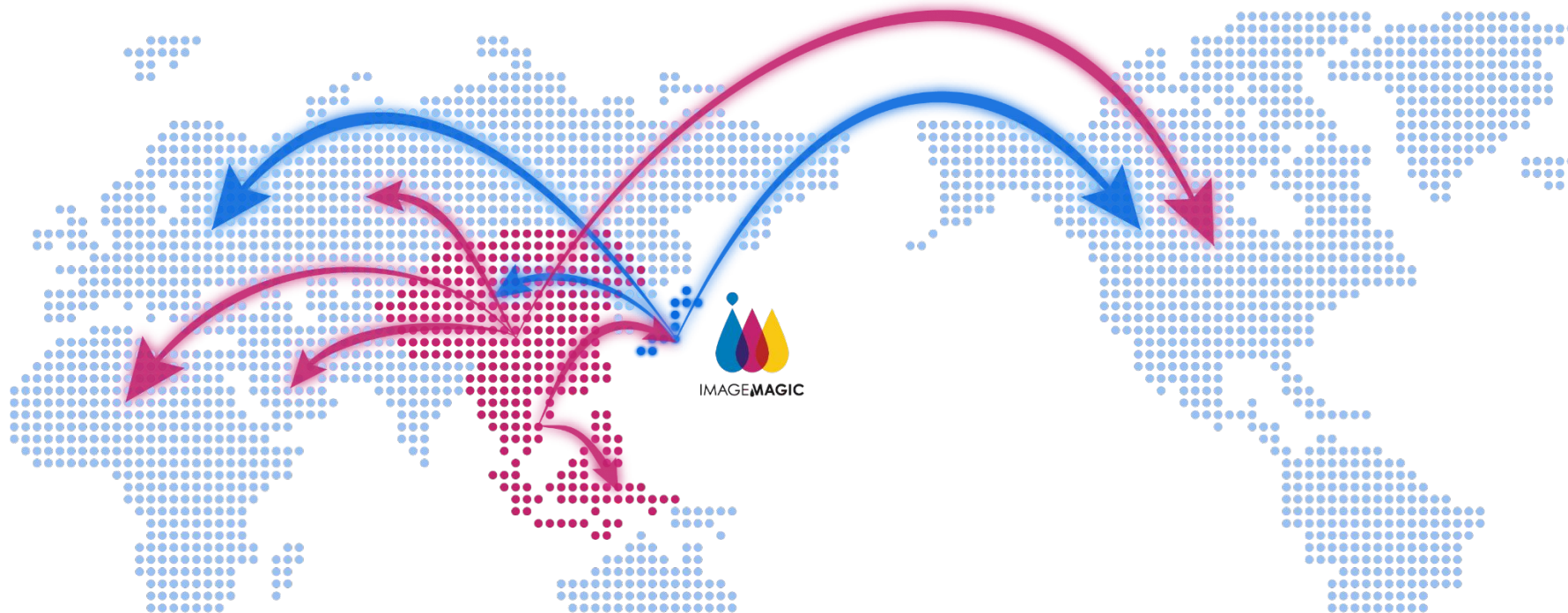
ロボットアームによるオンデマンドプリントの 自動化・省力化・省人化

プリント機器と前後工程の連携により 生産工程の連動をスムーズに



海外展開

プリントオンデマンドプラットフォームの 海外展開を実現していく



ASEAN の生産拠点にソリューション提供予定 オンデマンドプリントマーケットの成長に対して参画していく

※2024年2月に欧州、2024年9月に米国の展示会に当社製品を出品いたしました。

※2024/12期においてベトナム・パートナー工場で製造ライン試験運用を開始予定です。

Q&A

Q1. 第3四半期の売上、利益ともに第1、2四半期より伸びているが要因は何か。

A1. 売上と利益について一定の季節性があり、初夏から秋にかけて主力のTシャツの販売が伸びたいたします。前年同期との比較としては、自社サービスのマーケティング、営業活動が堅調に推移しました。

Q2. 研究開発の進捗状況について。

A2. AI、協働ロボット、自動化装置開発の開発により、省力化・自動化に取り組んでおります。開発において人材確保が重要なポイントと認識しており、引き続き積極的に技術者の採用を進めております。

Q3. 成長フェーズ段階で配当(初配)を実施するのは、成長投資先がないからでしょうか。

A3. 当社実績は堅調に推移しており、企業価値向上のための成長投資と内部留保の確保を優先的に継続しながら、株主の皆様への安定的継続的な利益還元の実現が可能であると判断し、当社初となる剰余金の配当(初配)を実施することといたしました。

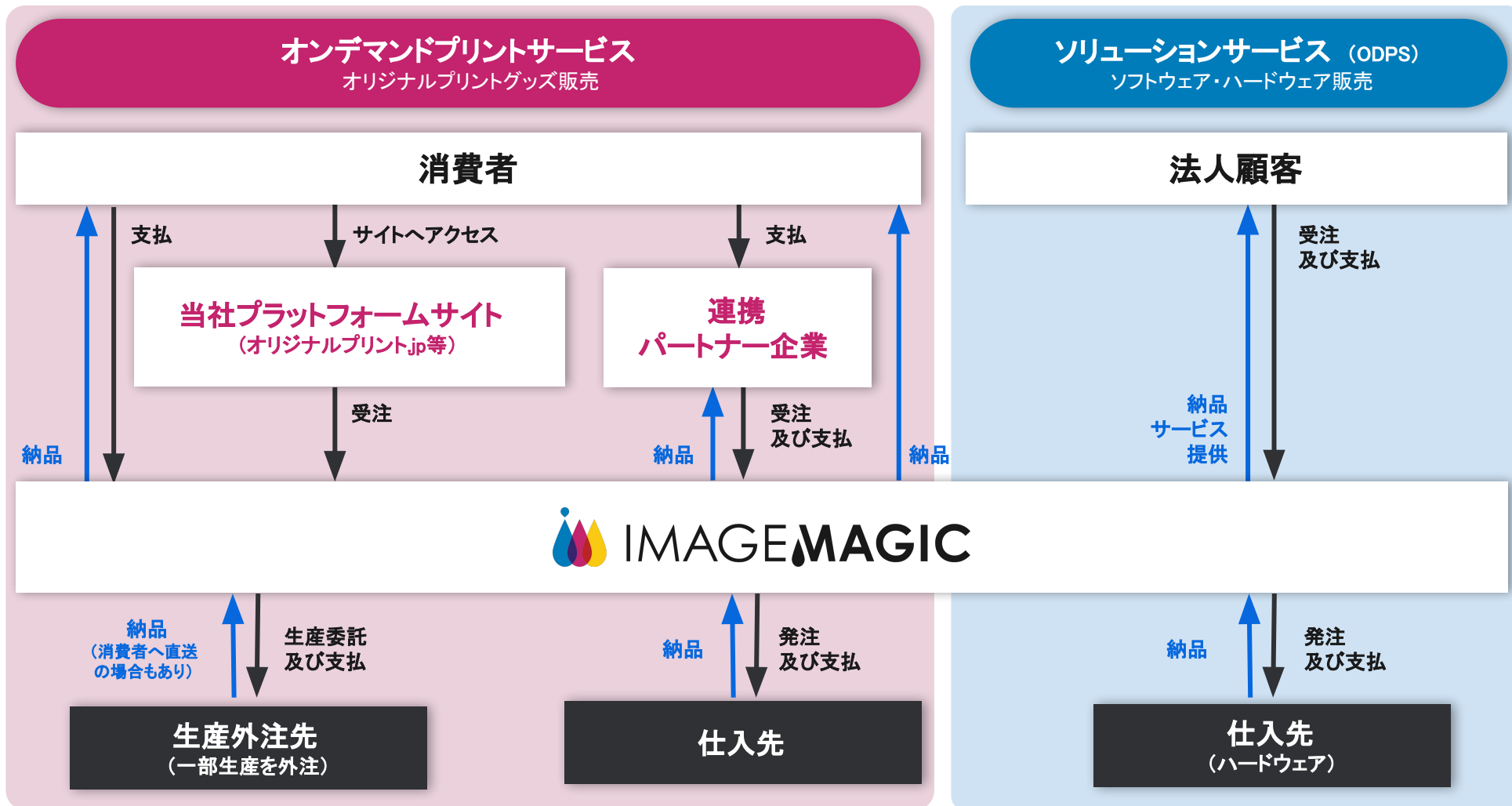
詳細は、弊社コーポレートサイト「CEOブログ」に当社代表の山川のメッセージを掲載しておりますので、ご参照ください。

<https://imagemagic.jp/category/ceoblog/>

5

Appendix

プリント×ITで新たな価値を創造する オンデマンドプリントプラットフォーム

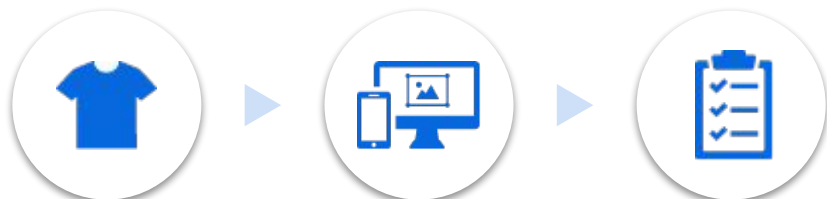


1 オリジナルプリント.jp



国内最大級かつ
シミュレーター付オンデマンドECにより
受注自動化のパイオニア

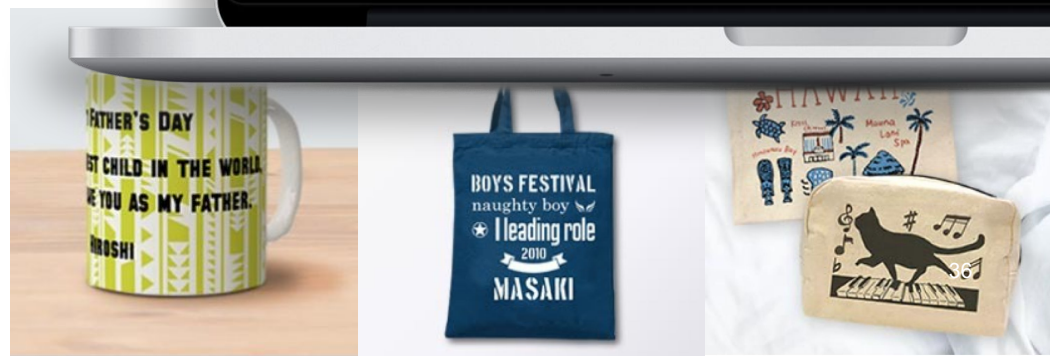
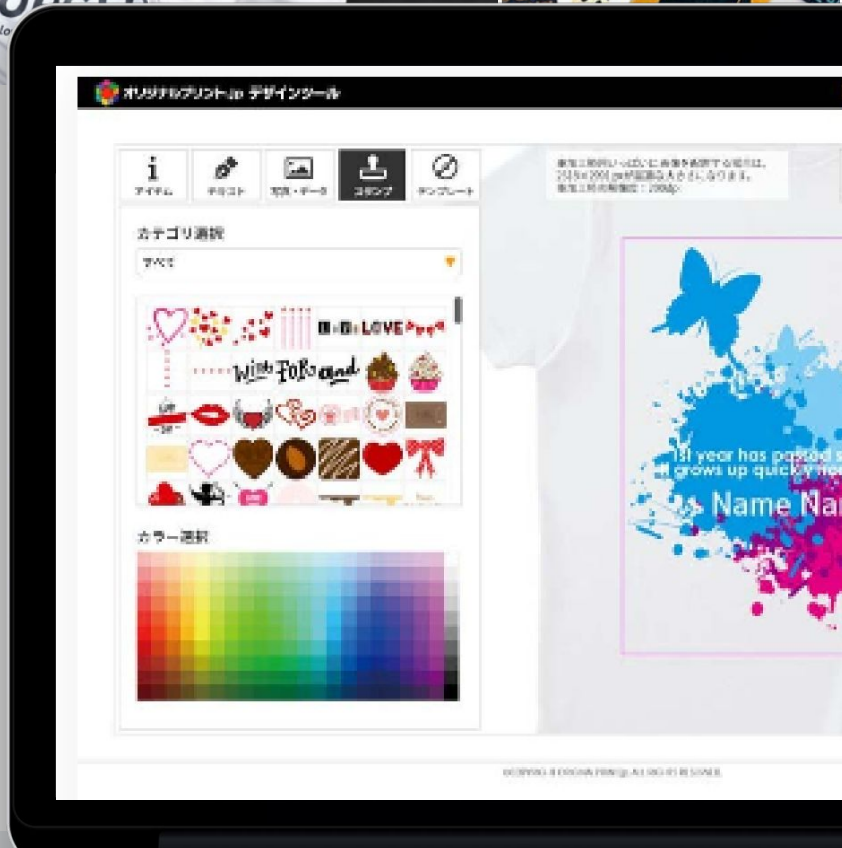
- ・オリジナルグッズを作成できる **ECサイト**
- ・当社 **独自開発のデザインツール** により簡単にカスタマイズ可能
- ・価格/納期/仕上がりがイメージを事前に確認可能なサービスのパイオニア
- ・アパレル・雑貨等
約1,900種類の豊富なアイテムを1点から 作成可能
- ・注文から出荷連絡までのサイトオペレーションを自動化



アイテムを選ぶ

デザインツールを使ってカスタマイズ

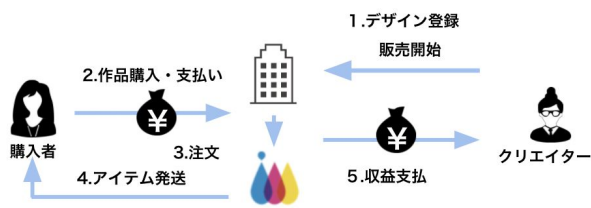
価格/納期等お客様が知りたい情報を事前に確認してから発注



2 連携パートナー/法人からの受注

拡大しているオンデマンドプリントの ビジネスフロー

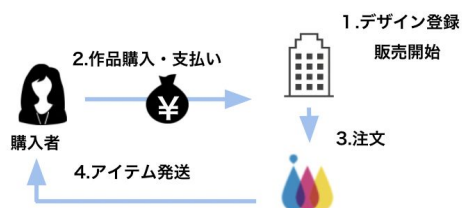
例：クリエイター



ビジネスフロー

- デザイン提供者であるクリエイターの出品アイテムの販売に対応
- 受注、生産、アイテムの出荷まで、クリエイターの手間が全くかからない

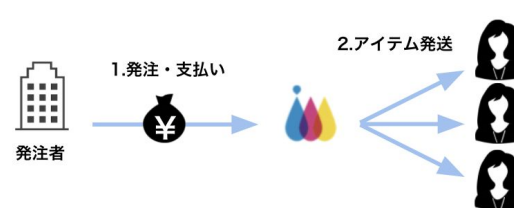
例：コンテンツホルダー



ビジネスフロー

- 販売する会社はキャラクター・有名人などのコンテンツを用意するだけで、幅広いアイテムの販売が可能
- 購入者が注文した後に、アイテムを作成して出荷するため在庫ロスなし

例：バリエーション印刷※



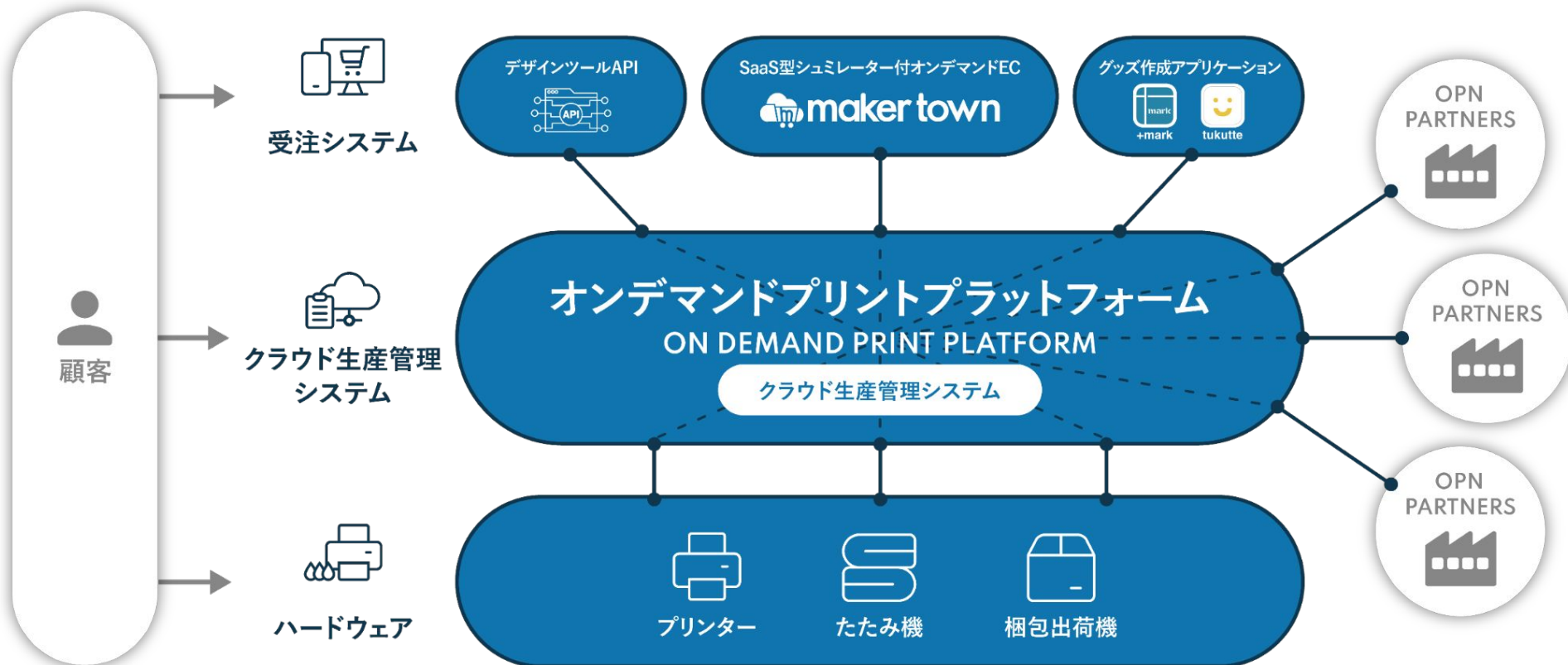
ビジネスフロー

- オンデマンドプリントのワークフローを活用し、小ロットからのオーダーが可能
- システム連携を前提とした1オーダー1デザインの購入者ごとのバリエーション印刷に対応

※バリエーション配送：データベースから情報を抽出し1案件ずつ異なる宛先への配送を行うこと

3 ソリューションサービス ビジネスモデル

受注から生産管理システム、ハードウェア等の 自社開発サービスをソリューションとして提供



本資料の取り扱いについて

- 別段の記載がない限り、本資料に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の作成時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、必ずしも既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。
- これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。また、当社以外の事項に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しており、当社はそのような一般に公知の情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。
- 本資料は、情報提供のみを目的として作成しています。本資料は、日本、米国、その他の地域における有価証券の販売の勧誘や購入の勧誘を目的としたものではありません。